

2021年1月5日

(更新日：2021年4月13日)

損害保険ジャパン株式会社

メインマーク・ストラクチュアル・コンサルティング株式会社

## ICTセンシング技術を活用した自然災害における防災・減災サービスの共創開始

損害保険ジャパン株式会社（代表取締役社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン」）とメインマーク・ストラクチュアル・コンサルティング株式会社（代表取締役社長：西村 彰敏、以下「メインマークSC」）は、台風や豪雨などの自然災害においてICTセンシング技術を活用した防災・減災に関連する保険商品やサービスの創出に共同で取り組んでいくことに合意しました。

### 1. 背景

近年、台風や豪雨などの災害の頻度が高まり、甚大な被害をもたらしています。多くの自治体や企業は、事業継続や従業員、地域住民などの安全管理を社会における重要な課題と認識しています。また、インフラの老朽化は急速に進み、豪雨などによるがけ崩れや落橋による事業継続が困難となりつつあり、人的被害も発生しています。今後発生しうる自然災害への備え、防災・減災の取組みの重要性が以前にも増して認識されるようになりました。

このような中、損保ジャパンとメインマークSCは、ともに防災・減災の観点から、自然災害時における持続可能な社会の実現に向けた取組みに力を入れてまいりました。

このたび、両社が保有する自然災害に備えたサービスや技術、知見を掛け合わせることで、事業の安定経営への支援および従業員・地域住民の命を守るサービスの提供、安心・安全なまちづくりの実現を目指して、共創に取り組むことに合意しました。

### 2. 取組み内容

損保ジャパンは、自然災害に備えた保険商品の開発や提供をしており、災害発生後の復旧に関する補償に加えて、ICTとの連動により災害発生前にインフラ損害等の予兆を把握し、事前対策についてのリスクマネジメントとともに事業の安定経営などへの支援に取り組んでおります。

メインマークSCは微振動と強振動のセンシングを通して自然災害に対する構造物の状態変化を検知する技術や実況を定量的に評価する技術を提供しています。

両社の強みを掛け合わせ、第一弾として、台風や豪雨発生時にインフラ（のり面、急斜面、橋梁等）の損害の状況や予兆をICT防災センシング技術の活用により、遠隔管理・把握し、防災・減災に役立てる保険商品やサービス開発の検討を開始しています。土砂災害などによる被害を未然に防止し、人命を守るとともに、管理者側の安全確保等の業務を合理化します。

2社はそれぞれの持つ強み、知見、経験に基づき、産学官連携のうえ、自治体などの実証実験や共同研究なども踏まえ、自然災害に備えた保険商品やサービスの開発に取り組みます。

### 3. 今後について

損保ジャパンとメインマークSCは、自然災害における防災・減災の観点で具体的な対策を講じ、住み続けられるまちづくりに取り組み、SDGsの取組みに一層貢献していきます。

また、「安心・安全・健康」な社会の実現に向けて、技術・サービスを提供し、社会の課題解決を目指します。

**(例) 台風や豪雨発生時にインフラの損害の状況や予兆を遠隔管理し、  
防災・減災に役立てるサービスの検討**



以上

**【参考】**

**損保ジャパンについて**

会社名 : 損害保険ジャパン株式会社  
代表者 : 代表取締役社長 西澤 敬二  
所在地 : 東京都新宿区西新宿 1-2-6-1  
設立年月 : 1888年10月  
事業内容 : 損害保険事業

**メインマークSCについて**

会社名 : メインマーク・ストラクチャル・コンサルティング株式会社  
代表者 : 代表取締役社長 西村 彰敏  
所在地 : 東京都江戸川区西葛西 5-2-3  
設立年月 : 2018年3月  
事業内容 : 構造センシング、構造シミュレーション、構造コンサルティング、システム開発